

<参考資料>

◆大深町公園の計画概要について

(平成31年2月 建設局公園緑化部)



1. 全体のコンセプト	…… 01
2. 周辺とのつながり	…… 03
3. ゾーニング	…… 04
4. 全体計画図 (案)	…… 06
5. 主要断面イメージ	…… 07
6. 防災施設計画 (案)	…… 08

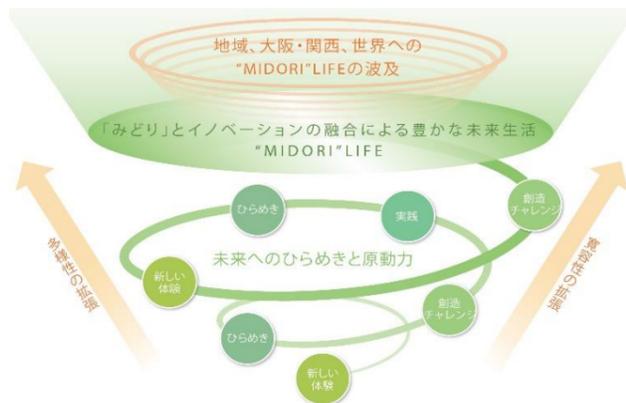
1 全体コンセプト

■うめきた2期区域全体の「みどり」のコンセプト

・うめきた2期区域から世界に向けて発信する“MIDORI” LIFE（「みどり」とイノベーションの融合による豊かな未来生活）を生み出す、未来へのひらめきと原動力となる「みどり」の創出をめざす。

未来へのひらめきと原動力となる「みどり」

“MIDORI” LIFEを成長させ続ける原動力となる空間や機能・マネジメントを備え、国内外から多様な人々と文化・経済活動を呼び込み、大阪の使いこなし文化と融合させて新たなライフモデルを生み出す



“MIDORI” LIFEの成長スパイラル

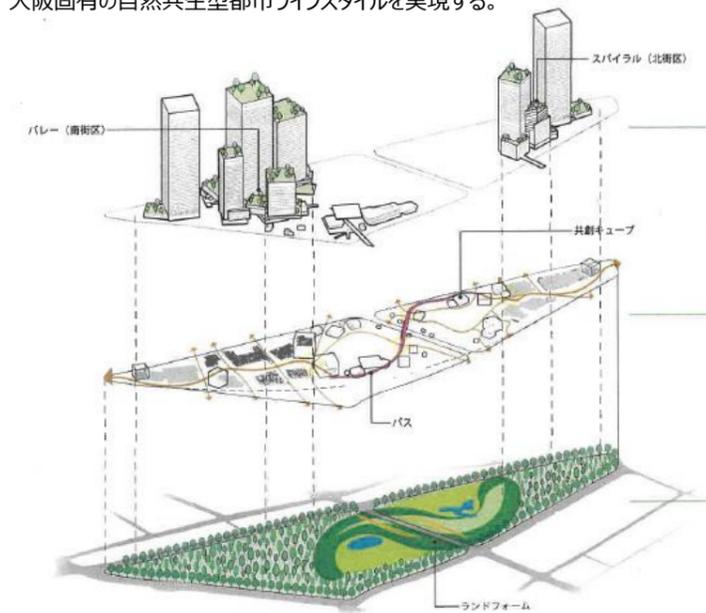
都市公園の「みどり」と民間宅地の「みどり」が連携した、一体的な管理運営モデルを構築することにより、市民やクリエイターが「みどり」を公的に使いこなしマインドを醸成する



「みどり」の一体的な管理運営モデル

■都市機能と一体となった「みどり」

都市機能が「みどり」の大地の上に存在することにより、人々の生活と一体となったひらめきの原動力となる「みどり」があらゆるレベルで展開され、大阪固有の自然共生型都市ライフスタイルを実現する。



都市機能と一体のみどり

南北街区の建築物用途と一体となった「みどり」により公園から立体的につながる重層的なアクティビティを生み出す。

公園施設とバス

バスのネットワークが周辺の人々を迎い入れ、公園施設で展開される様々なアクティビティをつなぐ。

みどりの大地

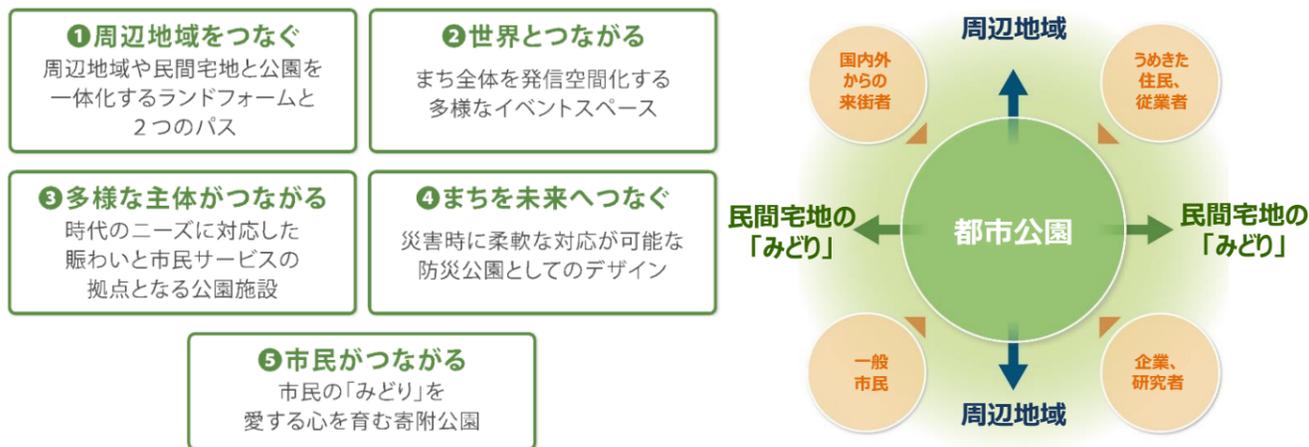
敷地全体に多様で寛容な空間を支える、大阪固有の資源に根差した「みどり」大地を創造する

■公園整備のコンセプト

・「うめきた2期区域 まちづくりの方針」など関連計画や公園周辺の地域特性、2期区域全体の「みどり」の整備コンセプトを踏まえ、公園整備のコンセプトを以下のように定める。

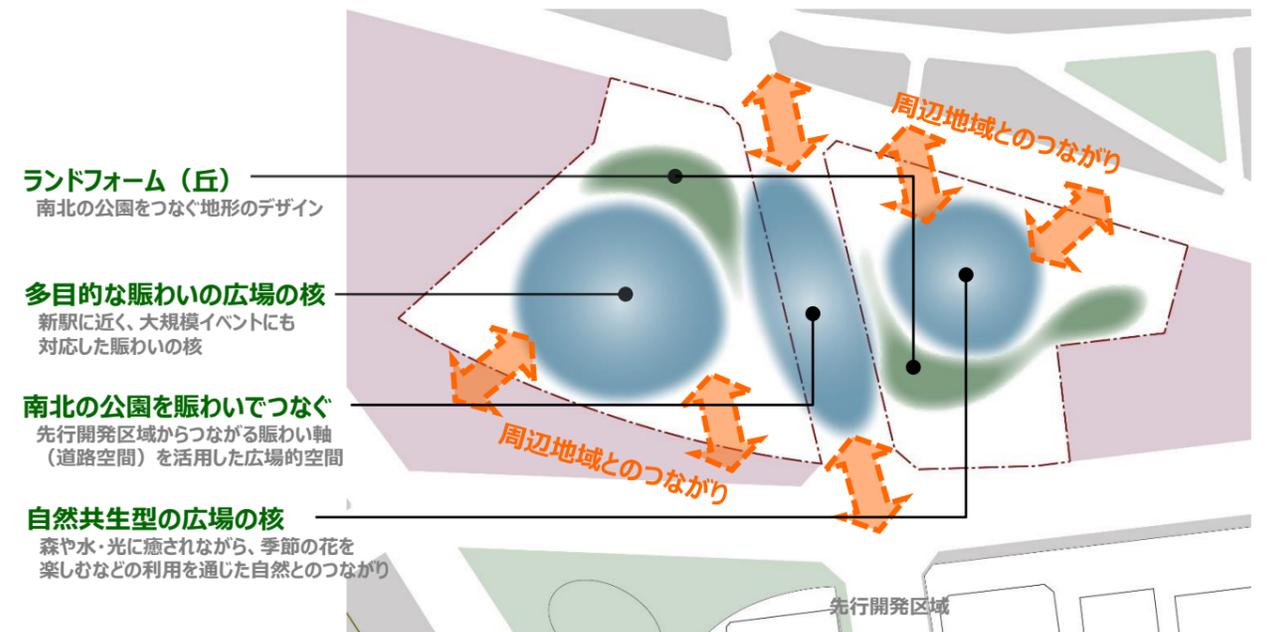
うめきた2期区域の民間宅地や周辺地域をつなぐ「みどり」の核

うめきた2期区域内の民間宅地や周辺地域との空間的なつながりだけでなく、公園利用を通じた多様な主体のつながりや防災公園としてのレジリエンス性の向上による未来へのつながり、「みどり」への愛着を介した市民のつながりをめざす公園とする



■周辺地域につながるランドスケープデザイン

公園の利用の核となる3つの大規模な広場空間と、それらを有機的につなぐランドフォーム（地形のデザイン）によって形成されるシークエンス景観が新駅や先行開発区域、周辺地域との一体感を生み出す。



1 全体コンセプト

■公園整備のスキーム

「うめきた2期区域 まちづくりの方針」を実現するため、周辺地域や民間宅地のまちづくりと連動した形で公民連携の上、各種の魅力的な公園施設を効果的に配置し、質の高い公園整備を実現していく。

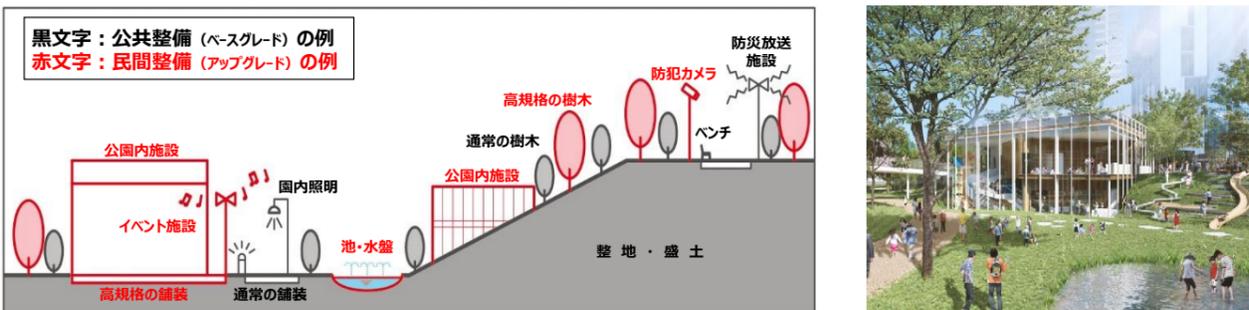
公民連携による質の高い公園整備の実現

公共による質の高い公園整備

防災公園街区整備事業により、うめきたにふさわしい整備水準の公園を実現する（ベースグレード）

民間による公園の魅力をも高める施設整備

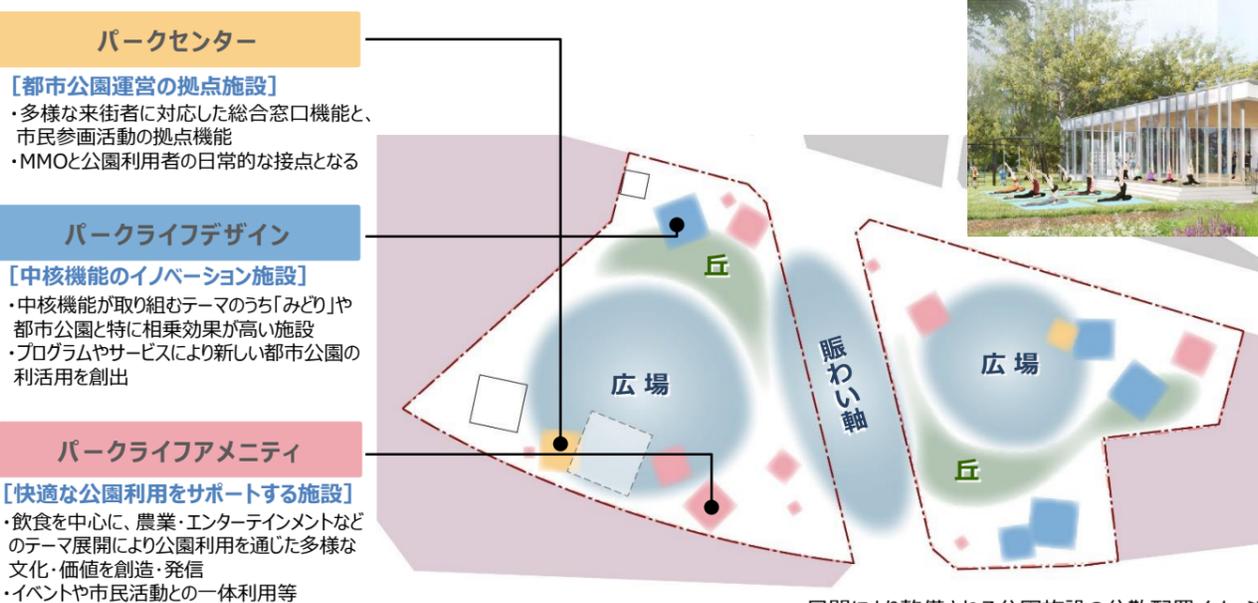
民間の柔軟な発想や優れたアイデアを活かし、まち全体の魅力を更に高める公園施設の整備（アップグレード）



公民連携による公園整備の枠組みイメージ

■民間による公園施設整備のイメージ

「みどり」の整備コンセプトの実現をめざして、広場や丘などの公園空間と一体的に利用され、市民や世界の人びとによる多様な公園の使いこなし・アクティビティを創造・発信する、民間整備の施設を公園内に分散配置する。



民間により整備される公園施設の分散配置イメージ

■防災機能に関する整備方針

「北区 防災計画」や「大阪駅周辺地域 都市再生安全確保計画」などの関連計画をふまえ、本公園の防災機能に関する整備方針を以下のように定める。

自助・共助・公助の最大化による「災害に強いまち梅田」の拠点

災害想定・被害想定

上町断層帯地震

震度6強～7の地震が発生、大阪駅方面より約3.4万人の一時避難者が本計画地に避難することが想定され、大人数の移動により混乱が発生することが懸念される。

南海トラフ巨大地震

震度5強～6弱の地震発生後、150分程度で2mの津波が到来すると想定されており、迅速な避難指示を行わなければ、多数の死傷者が発生すると予想される。

避難場所の指定状況

- 「うめきた」地区は、北区の広域避難場所に指定されている。（大規模火災・地震時に避難可）
- 計画地周辺の広域避難場所としては、南西約1.8kmの位置に「下福島公園」地区、南約1.2kmに「中之島」地区、東約2.3kmに「淀川リバーサイド」地区があり、北区北西部・福島区北東部には広域避難場所はない。

（『大阪市地域防災計画(震災対策編)』・『北区防災計画』より）

本公園は「防災公園の計画・設計に関するガイドライン(案)」に定める「広域避難地の機能を有する都市公園」として整備し、以下のような防災関連機能を具備することが求められる。

広域避難地の機能を有する本公園に整備すべき主な防災施設

園路広場他

入口形態：大量の一時避難者の進入や、緊急車両の円滑な進入を考慮した幅員等
外周形態：災害時に避難者が容易に進入可能で、公園外周部（歩道等）の安全性も考慮
広場：避難人数に対応した面積や安全性が確保された滞留スペース
園路：避難者の安全な園内移動や、緊急車両の円滑な通行を確保する仕様

水関連施設

災害時に仮設水槽を設置するスペースを確保し、避難者の飲料放水を供給する

非常用便所

避難人数・スペースに対応したマンホールトイレを公園内に確保する

照明等

停電時にも円滑な救援活動ができるよう、非常用の照明施設を設置する

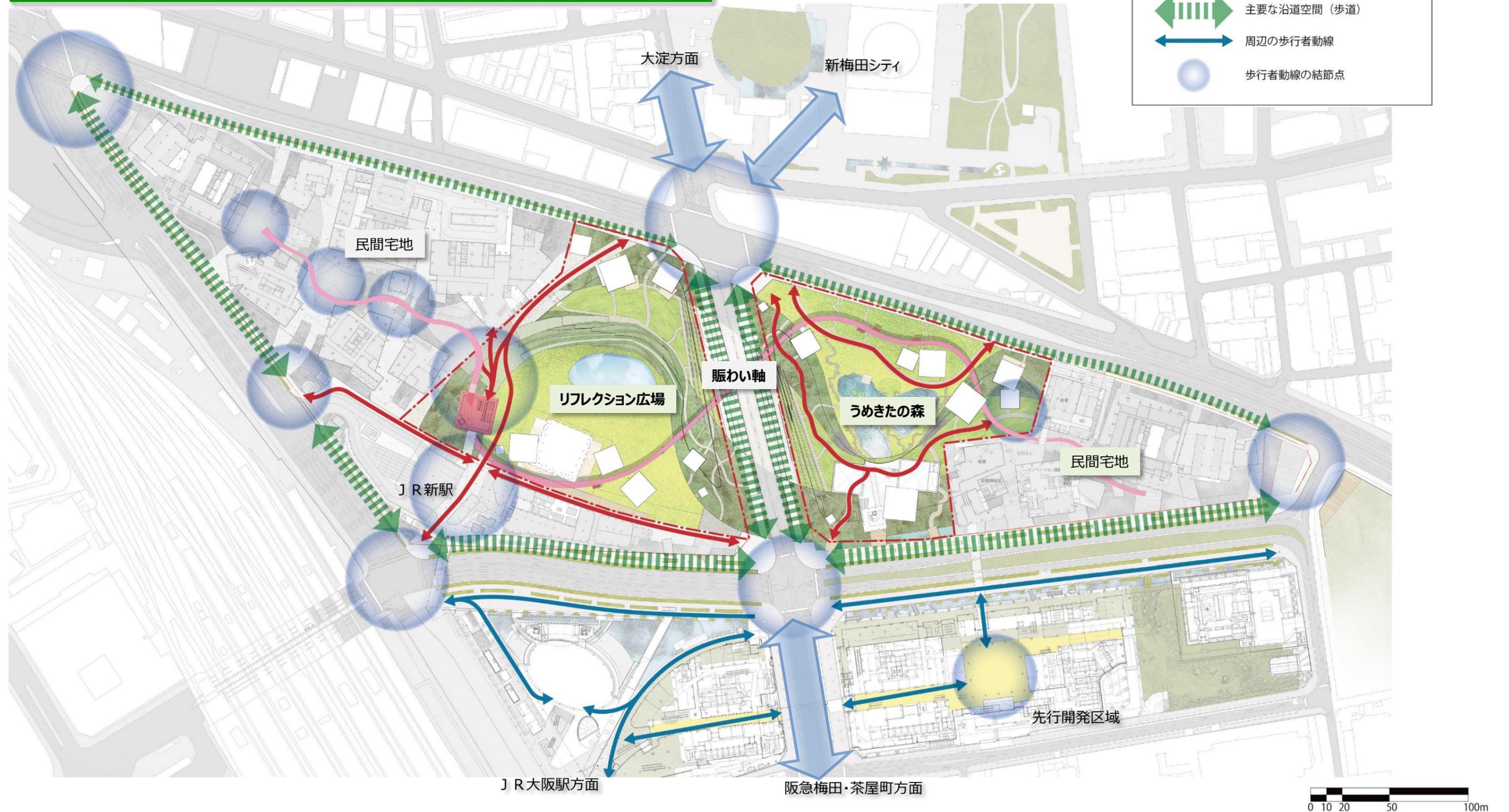
上記に掲げる都市公園内の防災施設と、民間宅地内の空地や建築物など各種施設が一体となって「うめきた地区」全体として、広域避難場所に求められる防災機能を高める。

2 周辺地区とのつながり

■周辺地区とのつながり

・「うめきた2期区域 まちづくりの方針」や周辺のまちづくり動向をふまえると、本公園および周辺地区の歩行者動線は以下ようになる。

- ・主要交差点やJ R新駅、民間宅地などに面した箇所を歩行者動線の結節点とする。
- ・歩行者のまちとの結節点をスムーズに連絡するとともに、公園内景観や施設の配置をふまえて主要動線を定める。
- ・公園内をまんべんなく回遊できるかたちでサブ歩行者動線を定める。



3 ゾーニング（まち全体）

民間宅地（南街区）3.0ha

・国際集客、交流に資する業務・商業・宿泊・MICE施設を配置し、世界からビジネス・観光を促す高度複合都市機能集積ゾーン

都市公園4.5ha

【北ゾーン】市寄付金整備区域を含むみどり豊かな憩いのゾーン
【南ゾーン】広場を中心に多くの人が集まる賑わいゾーン
【賑わい軸ゾーン】南北を賑わいでつなぐゾーン

民間宅地（北街区）1.6ha

・中核機能と宿泊機能を配置し、先行開発地区と連携する新作業創出と産学官民の交流ゾーン



3 ゾーニング (公園)

■ゾーニング計画

・公園整備のコンセプトや周辺地域とのつながりをふまえ、本公園には周辺地域との結節点となる空間や多様な活動を受け入れる広場や丘・森の空間など、5つのゾーンを以下のように配置する。

エントランスゾーン

- 各交差点や、大阪駅・西口広場からの顔となるゾーン。
- アクセスランタンや公園施設（建築物）の賑わいが、来街者を迎え入れる。



丘ゾーン

- ランドフォーム（緩やかな丘の地形）を感じるゾーン。
- 高低差と奥行きのある空間が、新たな公園体験を促す。



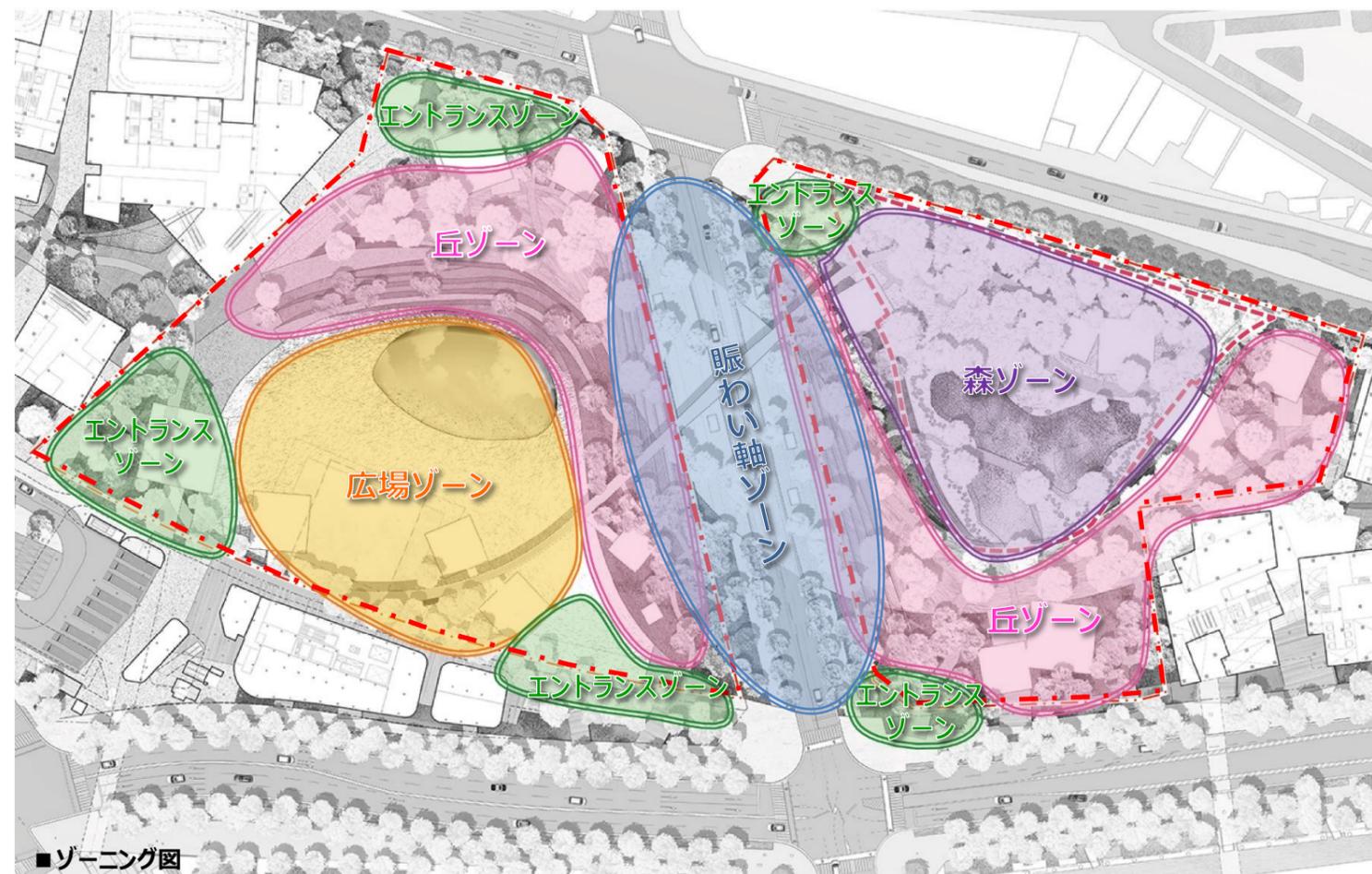
賑わい軸ゾーン

- 南北の公園を「賑わい」でつなぐゾーン。
- 公園と道路の一体的な利用ができる空間



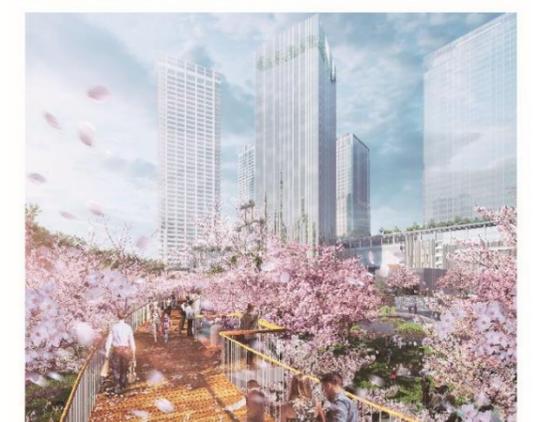
広場ゾーン

- イベント広場ともなる大広場ゾーン。
- 多様な使われ方を受け入れる。



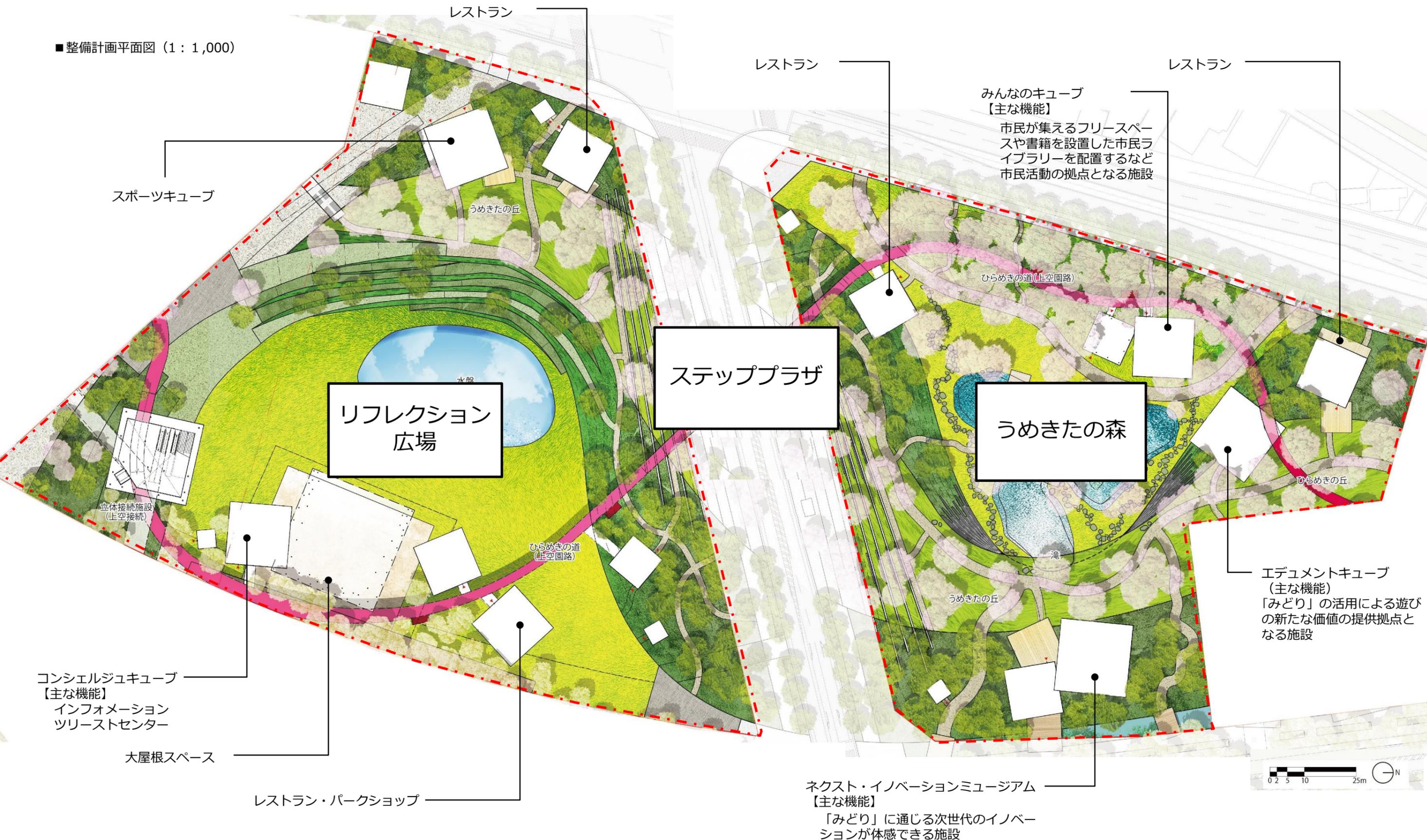
森ゾーン

- 市民の憩いとなる落ち着いたゾーン。

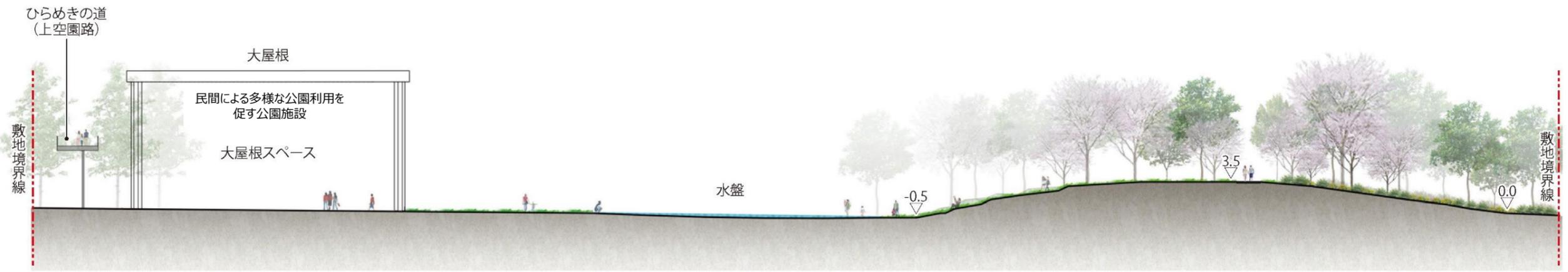
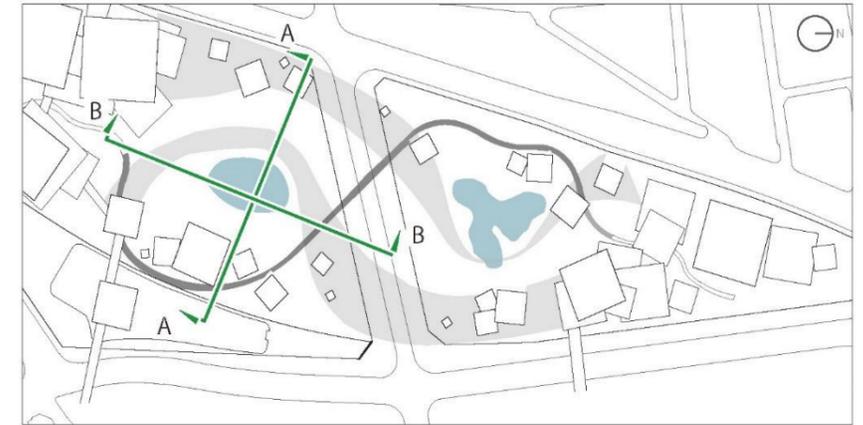


4 全体計画図 (案)

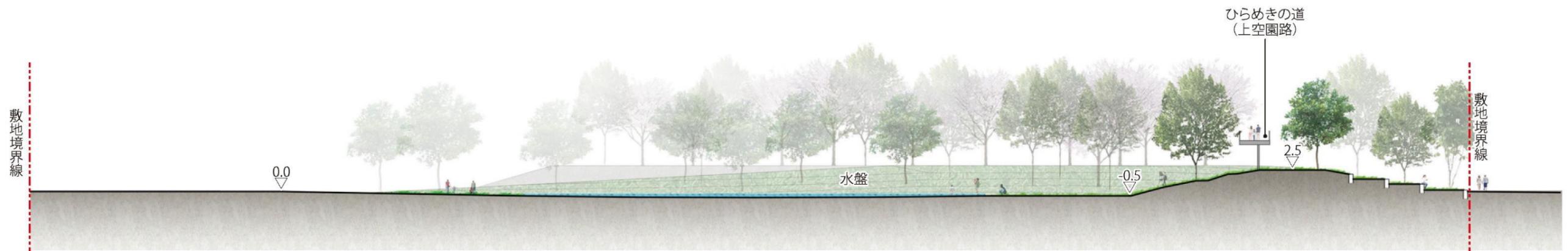
■ 整備計画平面図 (1 : 1,000)



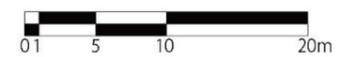
5 主要部断面イメージ



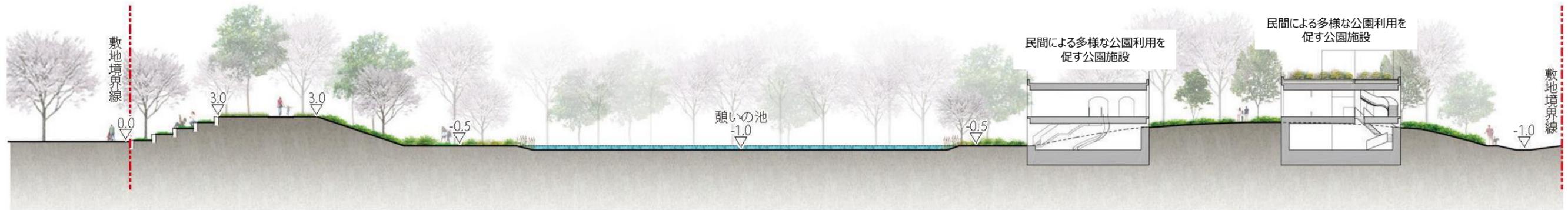
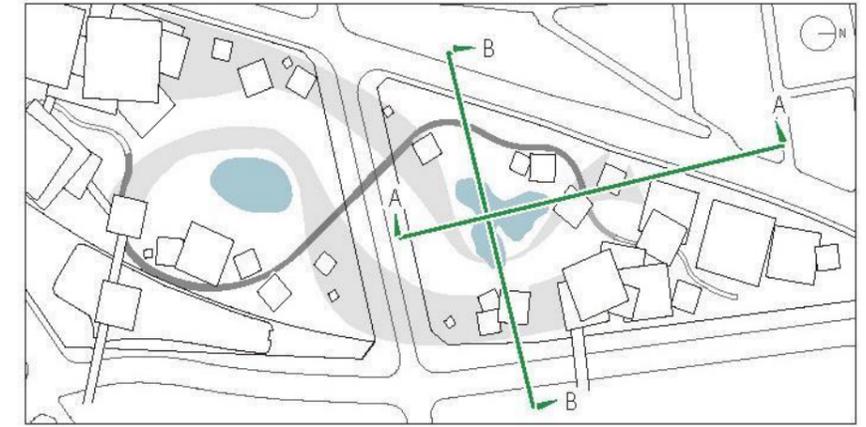
A-A断面図



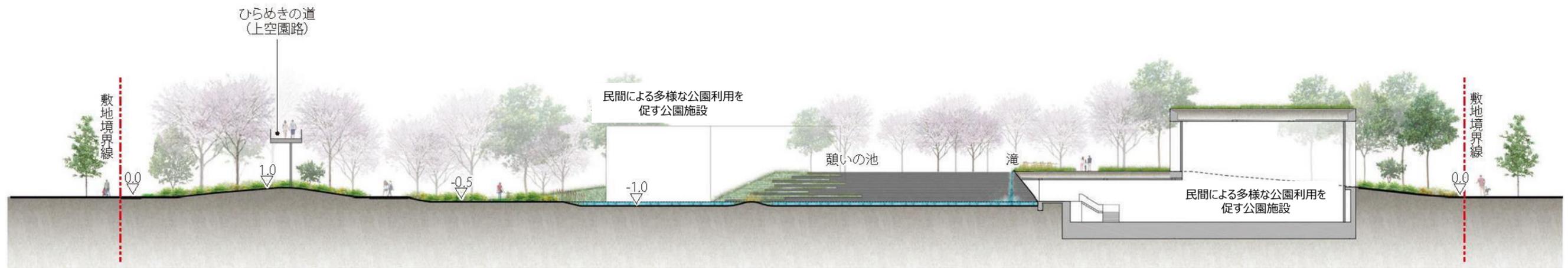
B-B断面図



5 主要部断面イメージ



A-A 断面図



B-B 断面図



6 防災施設計画 (案)

■ 防災施設計画

・本公園の防災機能に関する整備方針をふまえ、以下のような防災施設を公園内に適宜、配置する。

園路・広場等

- 大勢の避難者の流入が想定される西口広場、及び、賑わい軸（東西軸）東側に対しては、十分な入口幅員を確保。
- 緊急車両対応として、西側道路、及び、賑わい軸（東西軸）に緊急車両用入口を設ける。
- 避難者の滞留スペースとして活用できる平坦な広場（南公園7,000㎡、北公園4,000㎡）を確保するとともに、丘の上にも平坦な広場を確保。

水関連施設

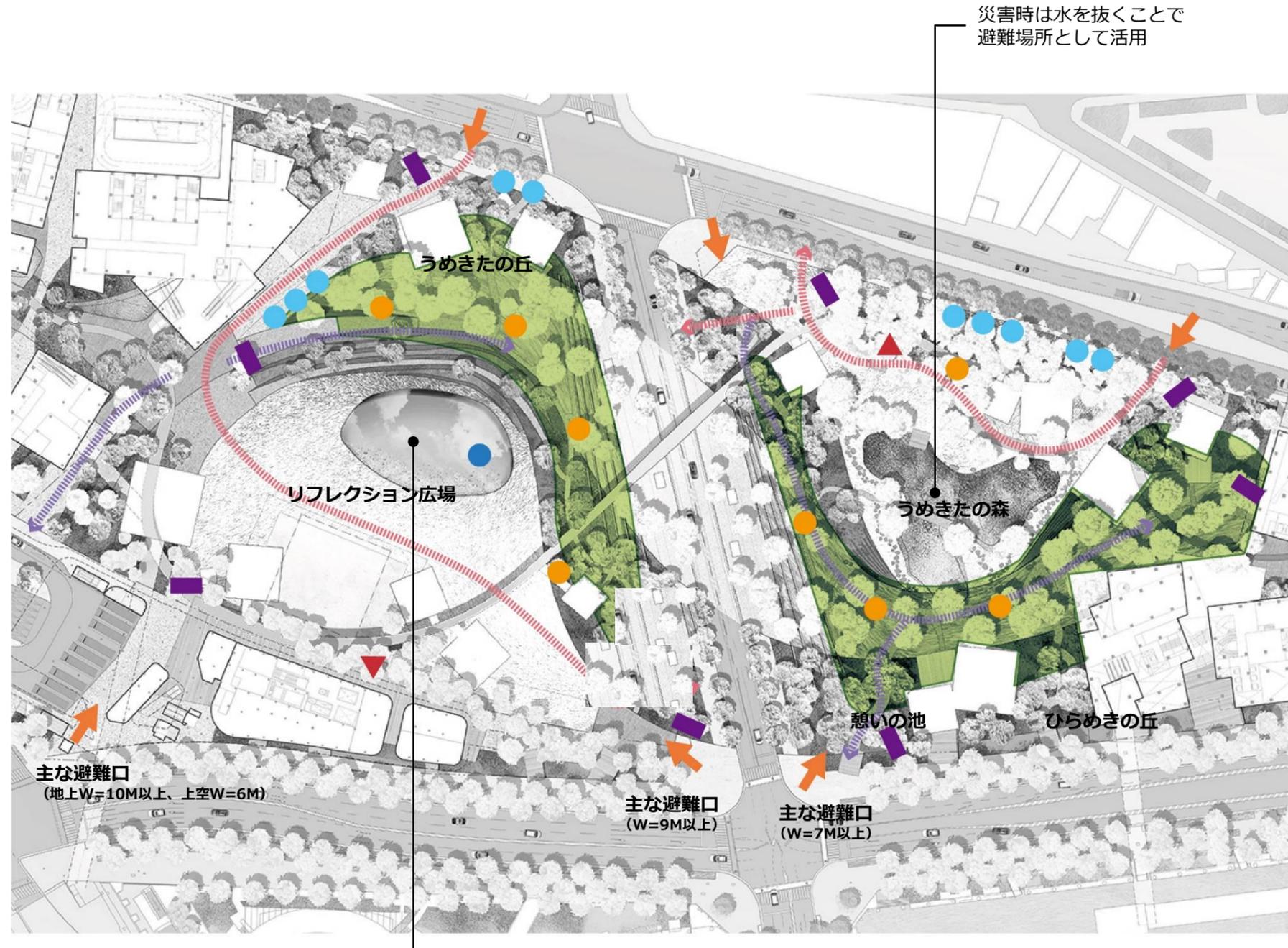
- 南公園・北公園に配置された二つの水景施設については、災害時には避難広場として活用できる仕様とする。
- 南公園のリフレクション水盤は給水を止めることで、避難広場とし仮設水槽を配置
- 北公園の憩いの池は、災害発生時に排水し、すみやかに避難できるスペースを確保するとともに物資集積所として利用



仮設水槽イメージ

備蓄倉庫

- 公園における避難活動、及び、帰宅困難者対応として、南公園、北公園それぞれに防災備蓄倉庫を設ける。



水盤は災害時に水の供給を止め、避難場所として活用

災害時は水を抜くことで避難場所として活用

非常用便所

- 災害用マンホールトイレを公園内に配置。常設トイレも災害時には、災害用トイレとして機能する設えとする。
- 避難人数（4.7万人）に対応できるように、非常時も利用可能な常用トイレに加えて、南北公園に非常用トイレ設ける。
- 女性・男性の利用を分ける配置とするとともに、バリアフリー用も併用



非常用便所のユニバーサルタイプイメージ

情報関連施設

- サインはデジタルサイネージとし、非常時の情報源として活用する。また、情報発信については各種の公園施設と連動して行う。
- 防災スピーカーは、南北公園にそれぞれに設置し、公園内放送施設は、災害時における放送設備として活用する。



防災スピーカーイメージ

- マンホールトイレ ● 仮設水槽置場 ▲ 防災スピーカー
- 非常用照明 ■ サイン → 主な避難口 ■ TP+2.0m以上の範囲
- 緊急車両用園路 (重荷対応) ■■■■■ 緊急車両用園路 (軽荷対応)